

渡辺淳一文学館公開講座

声楽家と医者

が考える

自然な発声法

～不自然な声を出さないようにするには？

歳を重ねても楽しく声を出すには自然であること！～

渡辺淳一文学館初の音楽講座！「自然な声」をテーマにいつまでも楽しく歌うための発声を声楽的、医学的に紐解いていきます。

講師

川村 英司（声楽家）

西澤 典子（耳鼻咽喉科医師）



受講料（全5回 15：00～17：00）

通し券 15,000円 各回 4,000円
（現金のみ クレジットカード不可）

- 第1回 7月23日(火) 「人間が声を出す仕組みを考えてみる」
- 第2回 8月30日(金) 「邦楽と洋楽の求めている声について」
- 第3回 10月22日(火) 「やさしい歌をみんなで楽しく歌ってみる」
- 第4回 11月29日(金) 「いかに歌に詩情を込められるか？の実践」
- 最終回 12月20日(金) 「まとめ」

会場 渡辺淳一文学館（札幌市中央区南12条西6丁目414）

※駐車場のご用意はございません。公共交通機関か近隣の駐車場をご利用下さい。

お申込・お問合せ

Mail : info.watanabe.bungaku@ac.auone-net.jp →

TEL : 011-551-1282（受付時間 9:30～17:00 ※月曜休館日）



個人情報の取扱いについてはこちら →

主催：渡辺淳一文学館

後援：札幌市・札幌市教育委員会 北海道フーゴー・ヴォルフ協会 北海道新聞社



川村 英司 (声楽家)

旭川市出身。戦後初のオーストリア政府給費留学生として、1957年にオーストリア国立ウィーン音楽院に入学。1959年5月戦後復活したウィーンでの第1回「国際ハイドン・シューベルトコンクール」第1位。1959年1月ウィーン楽友協会にてヴェルバ教授の伴奏でヨーロッパ最初のリサイタル開催以来、国内外で演奏会、講習会、レクチャーなどの幅広い活動の他、ドイツ歌曲を中心に作曲者の自筆譜を基にした研究は世界的にも評価されている。武蔵野音楽大学教授を定年退職後、東京ドイツ・リート研究所を設立。日本フーゴ・ヴォルフ協会理事長。北海道フーゴ・ヴォルフ協会顧問。これまでに声楽を庄司りゑ、リア・フォン・ヘッサート、A.フォーゲル、F.グロスマン、W.シュタインブリュック、リートとオラトリオをE.ヴェルバ、F.グロスマン、オペラをJ.ヴィットの諸教授に師事。



西澤 典子 (耳鼻咽喉科医師)

北海道大学医学部医学科卒業後、耳鼻咽喉科に入局。東京大学医学部附属音声言語医学研究施設の研究生を経て、国立身体障害者リハビリテーションセンター病院にて言語、聴覚外来を担当。その後、北海道大学病院耳鼻咽喉科にて音声言語専門外来を担当。北海道医療大学心理科学部（現リハビリテーション科学部）言語聴覚療法学科教授、同大学病院にて音声言語聴覚専門外来を担当。2022年より医療法人萌佑会 介護老人保健施設ゆあみーる医師、北海道大学病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科において言語外来を担当。医学博士。日本音声言語医学会参与。



山口 玲子 (ナビゲーター・ピアノ伴奏)

札幌大谷短期大学音楽科ピアノコース卒業。同専攻科、研究科修了。'00、北海道文化財団芸術指導者海外派遣事業によりイタリアの各地でコレペティートルとしての研鑽を積む。室内楽、声楽、合唱の伴奏などを中心に幅広い演奏活動を行う。現在、みべ音楽院、RISE音楽院、ヨークカルチャーセンター各講師。北海道日伊協会理事。札幌音楽家協議会、ハイメスアーティスト、北海道フーゴ・ヴォルフ協会各会員。混声合唱団「アゾル」ピアニスト。「Duo Maturo Concerto」主宰。

日程 (全日 15:00~17:00)

- ◆ 第1回 7月23日(火) 「人間が声を出す仕組みを考えてみる」
自然に楽しく声を出すという感覚の実践
＜医学的立場から＞ 発声器の解剖と生理
- ◆ 第2回 8月30日(金) 「邦楽と洋楽の求めている声について」
本質的な違い、及び横隔膜を自然に使う方法 (見本は赤ちゃん)
＜医学的立場から＞ 呼吸器の解剖と生理
- ◆ 第3回 10月22日(火) 「やさしい歌をみんなで楽しく歌ってみる」
気楽に他人の声を聴きながら、自分の声で綺麗なハーモニーを作ってみる
＜ピアノ伴奏＞ 山口玲子
- ◆ 第4回 11月29日(金) 「いかに歌に詩情を込められるか? の実践」
感情のこもった声を出す自然な発声法、そのための全身の筋肉の使い方、「腰」(肉体の要)の使い方を知る
＜医学的立場から＞ 歌唱音声における感情表現
- ◆ 最終回 12月20日(金) 「まとめ」
楽に声を出すこと、自分の声を客観的に聞くことを試みる
＜医学的立場から＞ 科学が解明できていることとその限界